石見 有福神楽 「神迎」「黒塚」「大蛇」の演目紹介

神迎（かみむかえ）

支那の古代に四方の星の形から四方に名づけて、東を青龍（せいりゅう）、西を白虎（びゃっこ）、南を朱雀（すざく）、北を玄武（げんぶ）といい、此の四星を四神ともいいます。またこの天象に地相が相応するのを四神相応といい、此の神々をお迎えする神楽です。

黒塚（くろづか）

この神楽は、謡曲「安達が原（あだちがはら）」の鬼と、金毛九尾（きんもうきゅうび）の悪狐、玉藻（たまも）の前の説話を組み合わせたものです。
紀伊の国の祐慶法師（ゆうけいほうし）が、剛力と共に諸国行脚の途中、陸奥の国那須野ヶ原（なすのがはら）に住まいし、往来を妨げる金毛九尾の悪狐を退治しようとしますが、逆に苦しめられる剛力は食われ、法師は逃げ帰ります。
この人心を惑わす悪狐を、三浦の介（みうらのすけ）、上総の介（かずさのすけ）という二人の弓取りが那須野ヶ原に向かい、退治します。

大蛇（おろち）

御弟須佐之男命（みおとすさのおのみこと）の悪行により、天照大御神（あまてらすおおみかみ）が天の岩戸（あまのいわと）にお隠れになりました。
高天が原（たかまがはら）を追われた須佐之男命は中国大陸を徘徊し、出雲の国斐の川にさしかかると、嘆き悲しむ老夫婦と稲田姫に出会いました。理由を尋ねると、八岐の大蛇が毎年現れ、既に七人の娘が攫われ、残ったこの稲田姫もやがてその大蛇に攫われてしまうと言います。
一計を案じた須佐之男命は、種々の木の実で醸した毒酒を飲ませ、酔ったところを退治します。そのとき、大蛇の尾から出た剣を『天の村雲の宝剣』と名づけ、天照大御神に捧げ、稲田姫と結ばれました。

島根県石見地方観光情報 WEB サイトより
http://www.all-iwami.com/kagura/repertoire